

つながりを捉える社会科学習の展開 —歴史的分野 「近代の日本と世界」の実践より—

（実践者）田中 寿佳

1 研究テーマ設定の理由

持続可能な社会を支えるためには、刻々と変化し、複雑さを増す社会情勢や国際社会に翻弄されることなく、自分自身や社会を主体的に変えていくが必要になる。いかに変えていくのか、それは自分だけではなく、他者にとっても、今だけでなく未来にとっても「よりよい」ものでなくてはならず、その姿を思い描くことができることが、持続可能な社会を支えることにつながると考えた。自分にも他者にも「よりよい」を導くためには、他者との対話が不可欠である。対話において、互いが論理的思考力や表現力を発揮することで、互いの考えを理解しやすくなり、互いの考えのよさを活かし合った「よりよい」合意に至ることができるであろう。また、今だけでなく未来にとっても「よりよい」社会を構想するためには、現在の社会の姿を的確に把握できなければならない。そのためには複雑に絡み合う社会的事象が実際にはどのようにつながっているのかを多面的・多角的かつ総合的に捉え、何が問題の本質であるかを見抜く力が必要になる。以上のことから、他者とのつながりや社会的事象のつながりを捉えることが「よりよい」自分や社会を思い描き、持続可能な社会を支える上で大切であると考え、本研究テーマを設定した。

2 研究の内容及び方法

（Ⅰ） 問題解決的な学習の充実

時代を貫く柱となる事象を中心にして時代の特色を明らかにする学習展開を構成し、永続的な理解に到達できるような問いを設定する。

（Ⅱ） 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

班員にそれぞれ異なった役割を与えて追究させた成果から関わりやつながりを見いださせ、時代の本質に迫るような協働的な学習形態を工夫する。

（Ⅲ） 資質・能力が育つ評価の工夫

パフォーマンス課題を設定し、ルーブリックを作成し、生徒の育ちを見取る。

3 研究の実際

（1） 生徒の実態

明治時代の特色を、「明治時代とは、〇〇な時代、なぜなら□□。」と表現した記述から分析すると、ほとんどの生徒が「政治」「産業」「国際関係」「文化」の四つの面すべてに共通したり、関わったりする内容が書けていた。しかし、約4分の1の生徒が書いた内容は、小学校の学習段階でも書ける内容で、仲間との協働の学びの中で新たに見いだしたつながりを活かすことはできていなかった。時代の特色を一面的でなく、多面的・多角的に考察することはできているといえるが、さらに、仲間との学び合いにおいて思考を深め広げさせていく必要がある。

また、〇〇な時代と捉えた根拠を具体的な事例を用いて明確に、またはつじつまの合う文章で書けていたA評価の生徒は1割に満たなかった。7割弱のB評価の生徒は、具体的な事例は示せていないが、理由をつじつまの合う文章で書くことはできていた。C評価の2割の生徒は、〇〇と□□の内容がほぼ同じ、あるいは、かけ離れている文章になっていた。

以上のことから、生徒は多面的・多角的に考察することはできているが、根拠を明確にして論述することはできていない生徒が多い。根拠を具体的な事例を示して論述することや、結論と根拠の整合性を吟味させる指導が必要である。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

- (Ⅲ) 時代の特色を明らかにするというねらいを達成するために、多面的・多角的に考察し、つながりを重視しなければ捉えることができない問題解決的な学習を構成する。
- (Ⅲ) 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの場面において、根拠を明確に、筋道立てて分かりやすく表現することを意識して、自分の考えを伝え合わせる。また、思考を可視化することで、互いの思考をつないだり、理解しやすくしたりする。
- (Ⅲ) 自分の考えを伝え合う活動において、相互評価を取り入れ、相手の表現のよかった点や改善点を伝え合わせる。また、ルーブリックを作成して、論理的な思考力や表現力の高まりを評価する。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(7) 概要

時代の特色を明らかにした上で、歴史を大きく捉えさせることが求められている。一つの時代を特色づける柱となるもの、言い換えるとその時代の多くの社会的事象を貫く核となるものを通してその時代を見ていくことで、時代の特色が捉えやすくなるのではないかと考え、研究を重ねてきた。「近代」では、「近代化」を柱として考察させていくこととした。学習内容のまとまりや分量、時期などを考慮し、「近代」を「明治時代」「大正時代」「終戦までの昭和時代」の三つの時代に分けた。それぞれの時代の特色を捉えさせた上で、三つの時代を総合して近代の特色を捉えさせる展開とした。「明治時代」は前年度、前研究テーマのもとで行い、「近代化」を中心として「政治」「産業」「国際関係」「文化」の相互のつながりを多面的・多角的に考察させ、特色を捉えさせた。本研究でも前研究の手法を活かしつつ、「大正時代」「終戦までの昭和時代」で、「近代化」がそれぞれどのように展開したのかを追究させ、特色をまとめさせた。そして単元のまとめとして、各時代の特色の捉えを活用して、三つの時代を貫く「近代化」を時間軸にして、「近代」全体を再考察させ、「近代」はどのような時代であったかをパフォーマンス課題として表現させた。

単元名 「近代の日本と世界」（実践の中心は大正時代、終戦までの昭和時代と単元のまとめ）

単元目標

列強諸国に追いつくために近代国家を成立させた日本でその後どのように近代化が展開したのかを「政治」「国際関係」「産業」「文化」の面とそれらの関わりから多面的・多角的に考察する。大正期には国際協調の動きや民主化、文化の大衆化の動きがあったが、その後戦争によって、その動きは逆行し、国民生活や人類に大きな被害を及ぼしたことを理解し、近代化にプラス、マイナスの両面があったことに気付く。

本質的な問い

近代化は社会や人々の生活にどのような影響を及ぼすのか。

永続的な理解

諸外国と様々な関係を築きながら、近代化は進展し、資本主義経済の成長が産業の発展を促し、生活の豊かさや国民の権利の拡大が図られ、民主政治を求める気運も高まった。その一方、資本主義経済の発展は、様々な格差や社会問題、資源の奪い合いを生み出し、戦争の要因の一つになった。戦争に向かう中で民主政治は形骸化し、生活や産業は規制され、戦争は近代化がもたらしてきた多くの恩恵を奪うことになった。近代化のプラス面だけを追求するのではなく、マイナス面に向き合い、解消する努力をしなければならない。

指導計画（全20時間）

次	学習内容	主 な 問 い
1	導入 ○学習への見通し	① 「近代国家」として成立するまでに進展した「近代化」はその後どうなるのだろうか。
2	第一次世界大戦と日本 大正時代	② 第一次世界大戦はなぜ起こったのだろうか。それまでの戦いより大きな被害を出したのはなぜだろうか。 ③ 第一次世界大戦後、世界にはどのような動きが起こったのだろうか。 ④ 第一次世界大戦後、日本にはどのような動きが起こったのだろうか。 ⑤ 大正時代の文化にはどのような特色があるのだろうか。
	大正時代のまとめ	⑥ 大正時代とはどのような時代なのだろうか。 ※詳細は 3 ア (イ) II (i)
3	世界恐慌と日本の中国侵略 終戦までの昭和時代	⑦ 第一次世界大戦後、国際協調へ向かった世界が、再び戦争に向かったのはなぜだろうか。 ⑧ 日本はどのように日中戦争に向かっていったのだろうか。 ⑨ 日中戦争は日本や中国、朝鮮の人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。
	第二次世界大戦と日本	⑩ 第二次世界大戦はどのように起こり、どんな展開になっていったのだろうか。 ⑪ なぜ、日本はアメリカとの戦争に踏み切ったのだろうか。 ⑫ 戦時下の人々の生活はどのようなものだったのだろうか。 ⑬ 日本はどのように終戦を迎えたのだろうか。
	終戦までの昭和時代のまとめ	⑭ 終戦までの昭和時代とはどのような時代なのだろうか。 ※詳細は 3 ア (イ) II (ii)
4	まとめ パフォーマンス課題	⑮ 近代新聞社から次のような原稿依頼がありました。その指示に従って別紙の用紙に原稿を完成させなさい。 「『近代とはどのような時代であったのか』をテーマに特集号をつくります。「近代化」を柱に時代ごとに特色をまとめた学びを生かしてあなたの捉えた近代を、400字から600字で表現してください。」

(イ) 本単元における指導と評価の工夫

(I) 問題解決的な学習の充実

これまでの時代と同様に近代においても、その時代がどのような時代であったかを自分の言葉で表現できるようになることが目標であることを示した。「明治時代」の初めに、日本が「近代化」を進め、アジアでは唯一、ヨーロッパ諸国と比較しても短期間に、近代国家として成立したことに着目させ、学習問題「なぜ、日本は独立を保ち、短期間で近代国家を成立させることができたか」を設定した。それを「政治」「産業」「国際関係」「文化」の四つの面から追究していくなかでそれぞれの「近代化」を明らかにさせ、それぞれのつながりを多面的・多角的に考察させることで明治の特色を捉えさせた。

「大正時代」「終戦までの昭和時代」においては、学習の初めに、明治時代に近代国家として認められるまでに進んだ「近代化」はその後どうなるかを予想させた。生徒は「今に近づいていくから、さらに進展する」と予想した。そこで、東京大空襲の跡や集団疎開の写真を提示し、生徒の思考を揺さぶった。そして、改めて四つの面を意識して「近代化」の展開を追究していくことで、近代の時代の特色を明らかにしていこうという問題意識をもたせた。

(Ⅱ)「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

「大正時代」「終戦までの昭和時代」のまとめの場面において、4人班の生徒一人一人に「政治」「産業」「国際関係」「文化」四つの面のうちどれか一つを担当させて追究させ、それを基に班で話し合う協働的な学びの場を設定した。自分の考えを伝える際には、「私は〇〇だと思います。なぜなら・・・だからです。」と、具体的な事例を挙げて、根拠を明確にして表現するようにさせた。また、ホワイトボードや付せん紙を使い、互いの思考やそのつながりを可視化させることで、「きょうどう」の精神を発揮させやすくした。

(ⅰ)「大正時代」のまとめの場面

- ① 「近代国家が成立した明治時代の近代化の状態を50点とすると、大正時代の近代化は何点か」をそれぞれの面の担当者に考えさせた。
- ② 班で、それぞれの点数とその点数を付けた根拠を伝え合わせた。
- ③ 互いの点数・根拠を比較しながら、その妥当性について議論し、班としてそれぞれの面の点数を決定し、順位付けをさせた。
- ④ 班ごとに順位と点数を示させ、それを基に全体で意見交換をさせた。
- ⑤ ④の活動で順位が上位だったものに共通する要因を班で話し合わせた。
- ⑥ 班や全体での話し合いを活かして、捉えた大正時代の特色を個人に文章でまとめさせた。

(ⅱ) 終戦までの昭和時代のまとめの場面

- ① 「昭和時代は近代化が進展したか、後退したか。またそれはなぜか。」をそれぞれの面の担当者に考えさせ、付せん紙にまとめさせた。

※ 産業面で各クラス一人ずつの生徒が軍事産業が伸びたことを理由に進展したとしたが、それ以外の生徒は後退したとしていた。

- ② 班で、右のホワイトボードのように、①で各自がまとめた付せん紙を四つの端に貼らせ、これを用いて互いの考えを伝え合わせた。
- ③ それぞれの面のつながりや影響し合っていることをホワイトボード上に書き込ませ、可視化させた。
- ④ そのつながりを総合的に見て、すべてに関わる近代化が後退（または進展）した要因は何かを班で考察させた。
- ⑤ 班ごとに④について発表させ、全体で意見を集約していった。
- ⑥ 班や全体での話し合いを活かして、捉えた終戦までの昭和時代の特色を個人に文章でまとめさせた。



四つの面のつながりを可視化

(Ⅲ) 資質・能力が育つ評価の工夫

各時代の特色をまとめた文を生徒同士で読み合わせ、根拠が具体的に何を指しているかが分かる文章か、特色と根拠に整合性があるかを互いに評価し、アドバイスをさせ合った。

「近代」のまとめで、自分が捉えた近代の時代像を現在の新聞に寄稿するという設定のパフォーマンス課題に取り組みせ、作品を永続的な理解への到達と論理的な思考力・表現力の高まりの二つに分けてルーブリックを作成して評価した。

イ 生徒の学びの実態

[永続的な理解に至っているかを見取るルーブリックと結果]

A	B	C
近代化のプラス面・マイナス面の両方が書けている。また、戦争によって近代化が後退した内容が書けている。	近代化のプラス面・マイナス面の両方が書けている。	近代化のプラス面・マイナス面のどちらかしか書けていない。
50%	29%	20%

8割の生徒は近代の「近代化」をプラス・マイナスの両面から捉えることができていた。Cの生徒について分析すると、「終戦までの昭和時代」の視点が抜けていた生徒がほとんどであった。なお、これらの生徒は、「終戦までの昭和時代」だけの特色をまとめた際には、「戦争」との関わりから近代化が後退したことを捉えた記述内容であったが、それを活かせていなかった。時間内に書き切れなかった生徒（約1割）もいたが、「近代化」という軸を活用しなかった生徒の中に三つの時代の特色を一つに総合することが難しかった生徒が多い。

[論理的な思考力・表現力の高まりを見取るルーブリックと結果]

A	B	C
自分が捉えた近代の特色を書いて、その根拠を複数の視点から明らかにしている。次の①・②の少なくとも一方は満たしている。 ①根拠の具体的事例を示している。 ②特色と根拠に整合性があり、それが端的に示されている。	自分が捉えた近代の特色を書いていて、その根拠を複数の視点から明らかにして書いている。また、特色と根拠に整合性がある。	自分が捉えた近代の特色を書いているが、根拠が一面である。または特色と根拠に整合性がない。
47%	34%	19%

Cの生徒が約2割いたが、根拠が一面であった生徒はおらず、全員が特色と根拠に整合性がなかった。その主な原因として考えられるのが、結論である特色の捉えの部分に複数の内容が書かれていることだ。例えば、「近代は、戦争を通じて外国との関わりが深まり、国民全体が国が示す方向へ向かった時代だと思う。」と捉えた生徒はこの根拠を示すために、多面的に様々な事象を盛り込みすぎ、結果的には、つじつまが合わなくなってしまう。このことは、Bと評価した生徒にもいえることで、特色と根拠に整合性は見られるが、文章が複雑で、一見しただけでは分かりにくいものがあつた。全体としては、明治時代の特色のまとめでの実態調査時と比べると、根拠を具体的に示して論述したり、根拠を端的に分かりやすく表現したりできる生徒は増加した。しかし、集約する範囲が増えたとはいえ、C評価の生徒が多いことは大きな課題である。

私は近代とは戦争によって前進し、戦争によって後退した時代であつたと思います。理由は三つあります。

一つ目に、明治時代です。開国し、外国に追いつこうと政府は近代化政策をおし進めました。そして、日清・日露の戦争の勝利から世界にも認められる近代化をとげました。

二つ目に、第一次世界大戦による大戦景気です。この好景気により日本の産業は発展しました。

三つ目に、太平洋戦争です。国家総動員法により、国民は軍のために全面的な協力を求められました。普及していた雑誌やラジオ放送は戦意を高めるために利用され、文化は発展しませんでした。また、米軍の空襲により町は破壊され、近代化はほとんどなくなりました。

これら三つの理由から、私は近代とは戦争によって前進し、戦争によって後退した時代だと思います。

実際の生徒の作品（どちらもA評価）

ウ 考察

(1) 問題解決的な学習の充実について

「明治時代」の学習では、時代の特色に迫るために追究する学習問題と問いを単元の最初に明確に示すことができたが、「大正時代」「終戦までの昭和時代」の学習では、「近代化がその後どうなっていくのだろうか」というあいまいな学習問題で、生徒の課題意識を高めるには弱かった。永続的な理解に至るためには何を理解させておかなくてはならないか、逆向き設計を意識して問いを構成したが、同時に生徒が最初にもった課題意識を単元を通してもち続けることができる単元構成でなくてはならないと感じた。学習問題・問い・永続的理解が正・逆どちらからもまっすぐつながる単元構成になっているかをよく吟味する必要がある。

(2) 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

各時代のまとめで、班で担当者を決め、協働的な学習形態の学び合いの場面を設定することで、仲間の学びと自分の学びをつなげて総合的に考察することや、比較したり共通点を見いだしたりして考察することが身に付いてきた。特に本研究から、学校全体で高めている論理的な思考力や表現力を意識させることで、自分の考えを伝えるときに、結論を先に述べ、理由をナンバリングを用いて伝えることが自然にできるようになってきた。自分と相手の思考が整理させているため、相手の考えも分かりやすく、つながりを見だしやすくなった。また、何を相手に質問すれば、話し合いが深まるのかポイントが絞りやすくなったため、学び合いの質は高まったと言える。

(3) 資質・能力が育つ評価の工夫

今回のパフォーマンス課題に対する二つのルーブリックはどちらも「思考・判断・表現」を見取るものにした。永続的な理解に至っているかの見取りはA評価でも、論理的な思考力・表現力の見取りではCの生徒がいたり、その逆の生徒もいたりしたので、生徒の育ちを細かく見取ることができたのではないかなと思う。しかし、ルーブリックの妥当性や他の観点をいかに見取るかなど研究を進めていく必要がある。

「近代化」を柱に問題解決的な学習を構成し、現代の人々が読む新聞に掲載するというパフォーマンス課題にしたことで、近代化が進行する現代生きる人々に近代の学習の学びを活かすための提言が表出されると考えていた。しかし、課題に明記していなかったことで、「近代化は、生活が便利になる一方、様々な問題を残して成長してきた。その問題にどう対応して発展させていくかがこれからの日本の課題だと考える」など書いていた生徒もいたが、数人に留まってしまった。パフォーマンス課題をしっかりと吟味していれば、よりよい社会を構築する力の育ちも見取ることができたのではないかと反省している。

4 研究の成果と課題

問題解決的な学習、生徒の学び合い、パフォーマンス課題による育ちの見取りはどれも生徒の資質や能力を高めることに有効であることが分かった。しかし、これらは単独ではなく、①パフォーマンス課題までを見通して単元を貫く学習問題を設定する。②それを解決するための質の高い問い構成する。③問いをきょうどうの精神を発揮する学び合いによって追究させる。④その過程で身に付けた知識や見方や考え方などを総動員してパフォーマンス課題に当たらせる。⑤ルーブリックを用いて評価する。という一連の活動の中に適切に連動させてこそより効果を発揮すると感じた。また、論理的な思考力や表現力を教育活動全体で育てていることが、社会科の授業においても発揮され、対話的な学びに近づいているので、今後も相乗効果で高めていけるようにしたい。